

## 足掛け11年で15万人をガイド

12月1日 ガイドの会、15万人達成を祝う

伊豆の国歴史ガイドの会（会長：宇野真好氏）は、平成13年『葦山歴史ガイドの会』として発足しました。この日行ったガイドにより、累計のガイド数15万人を達成。葦山反射炉でセレモニーが行われました。

15万人目は横浜市からお越しの石坂さん夫婦。前日は伊豆長岡温泉に宿泊したそうです。江川邸を見学後、反射炉を訪れ、記念の15万人目となりました。セレモニーでは、記念品や花束などが贈られました。



## 災害に対する備えを再確認

12月2日 地域防災訓練を実施

地域防災の日、自主防災会や消防団員、市職員など約1万人が参加し、市内各地域で地域防災訓練を実施しました。今年のテーマは、自らの命を守るための『自助』、地域で助け合う『共助』、災害を知ることから始める『減災』です。

公民館などが会場となり、消防署員や消防団員による消火訓練、HUG（避難所運営図上訓練）などが行われ、災害に対する備えを再確認していました。



## 正月のにぎやかさを演出

12月8日 シルバー有志による門松制作

シルバー人材センター会員の有志による門松制作が、田京の事務所駐車場で行われました。同有志による門松制作は今年で2年目。制作した門松は、市役所大仁庁舎、葦山庁舎、そして世界遺産登録を目指す葦山反射炉の入口に設置します。

材料の準備からすべて自分たちで手配し、見事な門松が完成しました。有志の皆さんは「少しでも正月らしい、にぎやかな演出ができれば」と話していました。



## そば2,000食、昼には完売

12月9日 浮橋そばの里まつり祭りが開催

そばの実栽培が盛んな浮橋地区で、この時期恒例となる“そば祭り”が開催され、多くの来場者でにぎわいました。会場では、一杯200円のかけそばをはじめ、そば打ち体験やつきたて餅の販売、野菜などを荷台に載せた軽トラ市などが催されました。

この日用意された2,000食のそばは、生産から調理まですべて区民の手によるもの。そばを求め列を作る多くの来場者に、地元の名産品をふるまいました。



## 幻想的な空間へ誘う3,500本の竹灯籠

12月1日・2日 葦山竹灯籠まつりを開催

国の重要文化財『江川邸』で二日間にわたり、『葦山竹灯籠まつり』を開催しました。

同邸の中庭を中心に、約3,500本の竹灯籠が設置され、訪れた人々を幻想的な雰囲気に取りこみました。まつりは、市の放置竹林対策事業の一環として。実施にあたっては、江川文庫や葦山金谷の里夢くらぶ、NPO法人日本の竹ファンクラブの皆さんの協力のもと開催しました。



## 子どもたちの声に共感、感動

11月17日 子ども・若者育成支援大会を開催

子どもたちを見守る青少年健全育成成功労者の、尊い活動を表彰する『功労者表彰』と、小中学生が日常生活の中で感じたことを発表する『わたしの主張』をアクシスカつらぎで実施しました。

わたしの主張では、次代を担う子どもたち9人が、将来の夢や希望を堂々と発表。優れた着想と素直な感覚のメッセージは、来場者の多くの共感と感動を呼びました。



## 冬の風物詩「白と緑のカーテン」

11月18日 田中山地区のダイコン干し

田中山のダイコンを使った市の特産品“たくあん”。この時期、田中山地区の各地でたくあん用のダイコンが収穫され、市内の冬の風物詩である“ダイコン干し”を見ることができます。

冬特有の青く澄んだ空と、ダイコンの白と緑のカーテン、そして田中山からの眺望は、多くの写真愛好家を集めます。食卓を彩る名脇役であるたくあん。まだ口にしたことのない人は、ぜひご賞味ください。

